実験の概要

ひがし北海道地域に提供予定のスマートフォン向けWILLERS MaaSアプリから収集できるデータに加えて、バスやタクシー、シェアモビリティからの車両データ、車室内データを収集・分析し、観光客の移動体験をより深く理解するとともに、地域とのデータ共有を行うことによる価値創造を実証するもの。

協定の構成員

【全体統括】	WILLER株式会社
【地方公共団体】	JR釧網本線維持活性化協議会 ※釧路市・弟子屈町・釧路町・標茶町・鶴居村 網走市・斜里町・小清水町・清里町の各首長・議長、 及び北海道 釧路総合政策局、 オホーツク総合振興局の局長で構成される協議会
【交通事業者】	JR北海道、阿寒バス株式会社、網走バス株式会社、 斜里バス株式会社、くしろバス株式会社、 金星釧路ハイヤー株式会社、有限会社阿寒観光ハイヤー 株式会社網走ハイヤー、株式会社斜里ハイヤー
【観光関係】	ひがし北海道自然の美への道DMO
【システム開発】	WILLERS PTE, LTD、AZAPA株式会社
【オブザーバー】	北海道運輸局 鉄道部、北海道 総合政策部 交通政策局

地域の交通課題

- ①公共交通を使った個人の観光周遊がしづらい
鉄道の各駅から観光地まで、二次交通を利用しないと辿り着けない場所が多くあるが、生活路線をベースとした設計の為、その利用方法が分かりづらく、また不便である為、個人旅行者の公共交通を使った観光周遊がしにくい。
- ②旅行中における移動時間のロス
観光地が広域にまたがっており、そこに速達性のある公共交通の移動手段がなく、周遊するには多くの時間が移動に使われてしまう。
- ③多様化する観光ニーズへの対応ができていない
地域事業者は今まで主に団体旅行を中心に受け入れてきた為、個人旅行者の移動目的、感動のポイントを把握できておらず、多様化する観光ニーズに対応できていない。

実験内容

- ① WILLERS MaaSアプリ・運転手アプリ・モビリティに搭載する車載センサーからのデータ収集
 - 2019年7月導入のMaaSアプリでは、利用者の属性情報や経路検索、一部予約情報の収集が可能。
 - 運転手アプリ及びモビリティ搭載のセンサーにより、リアルタイムの車両位置情報や混雑状況に加えて、乗客のシーンに応じた感情情報(感動・退屈)をデータ収集する。
- ② 収集したデータの地域内利活用
 - 行動履歴の蓄積から、オンデマンド交通を始めとする新交通サービスの企画を可能とする。
 - リアルタイムの運行状況や混雑状況を把握することで、観光客の最適な移動手段選択に役立てる。また災害等緊急時の情報提供基盤としてMaaSアプリの活用を可能とする。
 - 移動中の感情データを可視化する事で、移動サービスのカスタマイズや、新たな観光スポットの発見に役立てる。

本格的な導入に向けた検証項目、目標値

- 【KPI-1】
経路検索・レコメンド満足度：5点満点中3.7点以上
- 【KPI-2】
車載センサの設置協力交通事業者数：3社以上
(バス・タクシー・電車等で異なる輸送モードから対象選定し、実証実施を予定)
- 【KPI-3】
感情データ収集サンプル数：1,000データセット/対象区間